

今月の本棚

「血脈」(上) 佐藤愛子著／全ては当代随一の人気作家、佐藤紅緑の狂恋から始まった。紅緑の娘である著者が、サトウハチロー、愛子とつながる自らの一族の凄絶な生の姿を赤裸々に綴る。「ウエハースの椅子」江國香織著／わたしを訪ねてくるのはやさしい恋人(妻と息子と娘がいる)と、のら猫、そして記憶と孤独。切なく、激しく、危険な究極の恋物語。

「命よ孫よ」大泉逸郎著／「何度でもいい。おれの骨髄を息子のためにとってくれ」病で倒れた長男、家族の心の支えになった孫など「孫」で歌手デビューした著者が家族のきずなを語る。「魂」柳美里著／だめだ、だから助けてー恋人のがんはひと月で倍に。…彼を殺そう。恋人のがん闘病、自らの出産を描いた「命」の続編。さらに「生」「声」「死」の5部作になる予定。「なんとかしてよ、店長さん!」高橋



晋著／「試食もつと食べさせてー」「レジ担当者の感じが悪い!」「バイトのかつこいい人紹介してください」某スーパー店長とお客さまとの往復書簡。「ベイ・フワード」キャサリン・ハイド著／「世界を変える方法を考え、実行しよう」という宿題に12歳の少年は3人に良い事をし、そのお返しをほかの人へと頼む。そこから奇跡が始まる。

おはなし会

- 「いないいないばあよみかせ」(乳幼児対象) とき▼3月15日(木)・4月5日(木)午前10時30分
- 「かみしばいの会」(幼児〜小学校低学年対象) とき▼3月18日(日)・4月15日(日)午後2時
- 「どんどんおはなし会」(保育園年長〜小学校低学年対象) とき▼3月20日(火)午後2時
- 「えほんとわらべうたの会」(乳幼児対象) とき▼3月27日(火)午前10時30分
- 「おはなしレストラン」(小学生以上対象) とき▼4月7日(土)午後3時

- 4月の休館日
- 2日(月)・9日(月)・16日(月)・23日(月)・27日(金)

中央図書館

☎76-6111
FAX77-6066

歴史博物館 (☎77-6655)

歴史博物館開館10周年記念特別展

弥生の絵画 倭人の顔

―描かれた2000年前の世界―

25日(日)まで開催／観覧料大人400円・小人200円

下の写真は、三重県の嬉野町から出土した小型丸底土器(古墳時代前期・約1700年前)です。その口縁部に、墨で「田」の字状のものが描かれています。平成7年に発見されたころは、最古の文字として大きな話題となりました。現在では、同じく三重県の安濃町から出土した、「奉」が最古の文字とされています。実は、これが「田」という文字なのか、よく似た記号なのかについては、様々な議論が行われていてまだ定まっていません。「田」の下の角がつながっていないので、「田」によく似た記号だとする説がある一方、無造作に書かれているのだから離れていても不思議ではないという反論もあります。

- 3月の催しもの
- 映画会 ファミリー映画 アニマル「母をたずねて三千里」
- 3月25日(日)午前10時、午後2時／視聴覚室
- ★ミュージアム・スポット★
- 「安城の農具―米麦作りの道具たち―」
- 4月6日(金)〜18日(水)／企画展示室 ※入場無料



▲「田」状の文字が描かれている小型の土器



◀拡大図